

令和元年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

山間地域における地域資源を活かしたむらづくり

○ 集団等の名称 一般社団法人竹田文化共栄会（代表 廣瀬 哲夫）

○ 所在地 福井県坂井市

○ 受賞理由

・ 地域の沿革と概要

竹田地区は、福井県の北部、石川県と県境を接する坂井市の東部に位置しており、丈競山（たけくらべやま）等の山々に囲まれ盆地状に開けた山間地域である。

本地区は、森林が多く特産品にはゼンマイの加工品等があり、県内でも他に類をみない里山の豊かな恵みと、伝統的な食文化が残されている。

・ むらづくり組織の概要

① 一般社団法人竹田文化共栄会（以下「共栄会」という。）は、地区の豊富な山林資源の保全、森林経営等を行う目的で昭和39年に設立した。平成25年に一般社団法人へ移行し、坂井市から地区内の関連施設の指定管理を受託し、「竹田地区の暮らしを支える地域づくり」をスローガンに地域運営を展開している。

② 現在、共栄会には、竹田地区のほぼ全戸が加入している。役員は、各集落の区長をはじめ、関連施設等の常勤職員、地域づくりに積極的に参加できる者と合わせて15名のスタッフで構成されている。

・ むらづくりの取組概要

(1) 農林業生産面

① 本地区で生産されるゼンマイやワラビなどの山菜、自然薯、竹田川の清流を利用したコシヒカリ等を農産物直売所等で販売している。また、廃校となった旧小中学校の校舎をリノベーションした農村体験交流施設「ちくちくぼんぼん」（以下「ちくちくぼんぼん」という。）や飲食店等で地元の農林産物を提供し、消費拡大に取り組んでいる。さらに、ちくちくぼんぼんでは、全館の冷暖房にバイオマス・ボイラーを備え、地元の間伐材を利用した木質ペレットを使用し、森林の活用を図っている。

② 本地区のゼンマイは、みどり干しが特徴で、いち早くゼンマイ乾燥機を導入し、作業の効率化と量産化を行える体制であるほか、ゼンマイ生産の効率化のために林道など森林経営の改善に努めている。

(2) 生活・環境整備面

① ちくちくぼんぼんでは、本地区の豊かな自然を活かした多彩な体験プログラムを開発・提供することで、県内外からの交流人口が増加している。

② ちくちくぼんぼんでは、地元女性を「おばあシェフ」として、食堂部門に雇用している。また、29年には、保育園を改修したレストランでは、女性シェフ（Uターン者）に経営を任せ、薪ストーブを利用した料理を提供し、人気スポットとなっている。

③ 地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊も受け入れ、共栄会が行う地域活動に従事してもらっている。また、空き家をシェアハウスに改修し、他地区からの新たな人材・移住者を受け入れ、お試し移住を行っている。さらに、大学生と協働による地域づくりと、ワークショップである「Tキャンプ」を開催・継続している。

・ 他地域への普及性と今後の発展方向

これら共栄会の取組は、山間地域における集落機能を維持していくため、関連施設を有効に活用しながら、直売所での農林産物・加工品の販売や、関係人口の拡大、移住者への空き家の提供等に取り組んでいる事例であり、今後も活動の継続が期待できる。

条件不利地である山間地域にあって、地域資源を活用し、新たな人材を受け入れることで、地区の活力を高めており、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。